

新型コロナウイルス感染症対策 ガイドラインについて

令和2年6月30日作成

令和3年4月15日改訂

公益社団法人 日本綱引連盟

1 はじめに

令和2年5月4日に公表された新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の提言を参考に、スポーツ団体ごとにガイドラインを作成し、自主的な感染防止の取り組みを進めることが求められています。

つきましては、当連盟において、練習や競技会における注意事項を含む綱引競技の特性に応じたガイドラインを作成しました。このガイドラインを参考に、主催者や現場責任者の下で、綱引競技を実施していただきますようお願いします。

なお、練習や競技会(綱引大会)の実施に際しての新型コロナウイルス感染症への感染を防止する方策については、必ずしも十分に科学的な知見が集積されている訳ではありません。今後の知見の集積及び各地域の感染状況を踏まえて、逐次見直すことがあり得ることにご留意をお願いします。

2 綱引競技イベントの再開に当たっての基本的な考え方

当該イベントが開催される各都道府県知事の方針に従うことが大前提であり、開催や実施の判断に迷われた際は、開催地や施設が所在する都道府県のスポーツ主管課や衛生部局にご相談下さい。

なお、感染拡大の兆候やスポーツイベントにおけるクラスターの発生があった場合、各都道府県知事の協力の要請に基づき、無観客化、中止、延期等の適切な対応をとることが必要です。

3 綱引大会等のイベント開催・実施時の感染症対策について

主催者は、感染防止のため自らが実施すべき事項や参加者が遵守すべき事項をあらかじめ整理することが求められます。また各事項は、チェックリスト化し、適切な場所(大会等の受付場所など)に掲示するとともに、各事項がきちんと遵守されているか定期的に巡回・確認することにより、イベントの主催者だけでなく、参加者を含む関係者全員が感染防止のために取り組むことが必要です。

(1) 綱引大会等イベントの参加募集時の対応

主催者は、参加募集に際し、感染防止のために参加者が遵守すべき事項を明確にして、協力を求めることが必要です。また、これを遵守できない参加者は、他の参加者の安全を確保する等の観点から、参加を取り消したり、途中退場を求めたりすることがある得ることを周知することが必要です。

1) 体調確認等の情報提供

・主催者は、参加者全員から感染防止の観点から書面等で下記情報の提供を受けること。

- ① 氏名、年齢、住所、連絡先電話番号(個人情報追跡調査等の目的以外では使用しません)
- ② 当日の体温
- ③ 大会前2週間における下記事項の有無

ア) 平熱を超える発熱 イ) せきやのどの痛みなど風邪に似た症状 ウ) だるさ(倦怠感)、息苦しさ(呼吸困難) エ) 味覚・嗅覚の異常 オ) 体が重く感じる、疲れやすい等 カ) 新型コロナ感染症陽性者との濃厚接触の有無 キ) 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合 ク) 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

- ・体調確認の申し出

上記事項をまとめた「感染症対策チェックリスト」に記載して、参加者全員分を主催者又は代表者が受付に提出してください。

- ・利用後の体調の異変

利用後に、発熱症状など体調に異変が見られる方は、まず身近な医療機関にお電話ください。あわせて主催者又は施設管理者にも報告してください。

- ・検温

入場時に際して、整列の上、指定位置で必ずサーモグラフィ等による検温を済ませてマスク着用で入場してください。検温の際、発熱が認められる場合は入場できません。マスク着用のまま帰宅してください。

2) 開催要項策定の基本的な考え方

- ・屋内での滞留時間(競技延べ時間)を短縮することと運営スタッフの要員数を減らすことで、感染リスクを少なくできるため、競技種目や分散開催を検討することが必要です。
- ・開催される地域の感染状況により、募集する範囲を限定することも検討すること。
- ・参加料などは当日の現金収納をなくすため、事前の銀行口座振込みとしたり、案内書の送付から参加受付までメールでの送受信を優先すること。
- ・参加申込方法は、チーム名や代表者連絡先のみで受付し、メンバーが決定次第、振込と合わせてメンバーリストを送付してもらうこと。
- ・個人情報(全員の氏名・住所・連絡先電話番号等)の提供を受けるため、代表者の同意書を求めること。

3) 参加者に求められる感染防止のための措置

- ・マスクを各自持参すること。マスクの着用は、競技中(レーン入場～退場)以外は、必要です。
- ・こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。
- ・他の参加者や運営スタッフとの距離はできるだけ2mを目安に確保すること。
- ・会場内では、大きな声での会話や応援等を控えること。笛や太鼓等も禁止します。拍手は構いません。

(2) 当日の受付時の留意事項

- ・受付担当者もマスクや手袋を着用し、窓口付近に、手指消毒ボトルを設置すること。
- ・参加料等の徴収は、できる限り事前振込とし、当日の現金授受を避けること。
- ・発熱や軽い風邪症状等の自覚症状がある方は、入場しないように張り紙等で注意を促すこと。
- ・入場時の検温を行い、チェックリストの提出など有症状者の入場を確実に防止する措置を講じること。
- ・人と対面する場所では、換気の徹底とともに、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽すること。
- ・参加者が距離をおいて(2mを目安に、最低1m)整列しやすいように、目印の設置等を行うこと。
- ・当日の受付の他、大会前日の受付を行うなど、当日の混雑を極力避けること。
- ・車での来場は、事前予約制として、駐車許可証を発行したり、駐車場入口で受付誘導を行うこと。

(3) 綱引大会等イベントの参加者が守るべき対策

1) 体調の確認

- ・入館時には、マスク着用して、間隔をとって整列の上、大声を出さずに、検温を受けて、感染症対策チェックリストを代表者がまとめて受付に提出します。
- ・検温の際、発熱が認められる場合は入場できません。マスク着用のまま帰宅してください。

2) マスクの着用

- ・マスクは、各自持参してください。参加者全員が会場内では、マスクの着用が必要です。
- ・競技者は、競技特性からレーン上での競技中のみマスク無しでも構いませんが、前後の選手と会話したり、大声を出すこと、接触することは控えてください。

3) ビニール等回収袋の持参と利用

- ・参加者の手荷物は、ビニール等の回収袋(マイバッグ)を持参して、その中に保管してください。
- ・競技者は、競技中にシューズカバーやマスク、タオル等の手荷物を各自の回収袋に入れること。

4) 飲料・タオル等の準備とゴミ等の持ち帰り

- ・事前に食料・飲料などの準備を整えて入館してください。飲料・タオルの共用は避けてください。
- ・熱中症予防のため、こまめな水分補給を行うこと。共用は避けて、各自で持参してください。
- ・鼻水・唾液等が付いたゴミは、ビニール袋に密閉してからゴミ箱に入れてください。
- ・飲み残したペットボトルや弁当殻は、置き去りしないで、持ち帰りしてください。

5) 応援・観覧のマナー

- ・観覧席は、密を避けるため、座席(一席飛ばしなど)を離して座る位置を指定する場合があります。
- ・マスク着用して、大声を出したり対面しての会話は控えてください。拍手は構いません。
- ・応援のための笛や太鼓などの楽器の持ち込みはご遠慮ください。

(4) 大会等イベントの主催者と施設管理者が準備すべき対策と利用時の遵守事項

1) 手洗い場所・便所(マスク着用のまま)

参加者が、試合前後にこまめに手洗いができるように、以下に配慮して確保すること。

- ・手洗い場には、石鹸(ポンプ型が望ましい)を用意すること。
 - ・「手洗い 30 秒以上」等の掲示をすること。
 - ・手洗後はマイタオルを持参して共用は避けること。アルコール消毒ボトルも設置すること。
 - ・ぬれた手で水切りしたり、ドアノブに触れると感染の恐れがありますので、注意してください。
- 便所は、複数の利用者が触れる部位(ドアノブ、水洗トイレのレバー等)については、こまめに拭き取り消毒を実施すること。換気扇を常に回す、換気用小窓を開ける等換気に配慮すること。
- ・便器の蓋を閉めて、汚物を流すように表示すること。

2) 更衣室・休憩・待機スペース(マスク着用のまま)

- ・更衣室は、他の参加者と密にならないようにして、会話を控えて、短時間で済ませること。
- ・選手集合場所などの待機スペースは、広さにゆとりを持たせ、移動の手順を周知しておくこと。
- ・一時的に休憩する場所では、対面での飲食や会話は避けて、長時間滞留しないこと。
- ・入退出の前後に手洗い又はアルコール消毒を促すこと。
- ・換気扇を常に回す、換気用小窓を開ける等換気に配慮すること。

3) 競技用具の準備と使用上の遵守事項

① 綱引ロープ 主催者が準備した綱引ロープを会場に配置します。

- ・ロープの管理は、試合中の汚染対策として、アルコールを含むタオル等で手拭きして、乾燥のため、試合ごとに交換すること。過剰なアルコールの使用は、ロープが滑る原因となるため、留意すべきです。

② 綱引レーン 主催者が準備した専用レーンを会場に配置します。

- ・専用レーンの設置方法では、会場フロアの状況を見て、両面接着テープや下地テープの使用に配慮が必要です。さらに撤去時にもフロアを傷めないよう慎重なはがし作業が求められます。
- ・レーンの管理は、レーン素材を傷めず、滑らないように油分を残さないことを前提にして、試合ごとにこまめな除菌清掃が必要です。当面は、除菌シートのモップ清掃を試合ごとに実施します。

③ 体重計と計量の遵守事項

- ・体重計は、主催者が準備し、事前に参加者に計量場所・時間を周知しておくこと。
- ・計量に際し、広い場所に配置することや事前予約を促すことで、密を避けることが必要です。
- ・体重計は、その都度、台座等の接触部位を、除菌シートでの拭き取りを実施すること。
- ・選手は靴下着用とし、脱衣した着衣や靴は、床面に置かず手荷物回収袋を持参してもらうこと。
- ・計量所には、計量係と参加者のために、入退場時にアルコール消毒ボトルを配置すること。

④ 競技記録票の受け渡し

- ・競技記録票の受け渡し時は、対面したり接触を避けるため、「トレイ」を介した受け渡しを行うこと。
- ・記録票の受け渡し担当者は、マスクと手袋を着用し、「トレイ」もアルコール等で除菌清掃すること。

⑤ 参加チームのプラカードの管理

- ・プラカードは、参加チームが持ち回らずに、レーン近くに置場を設置して、自チームのプラカードを試合前後に、手袋をした監督やトレーナーが台座に立てたり、外したりすること。

(5) 選手等競技参加者が守るべき感染症対策と競技進行について

インドア(屋内)では、感染防止のため、換気扇を回し、扉は開放した状態で競技を行います。

綱引大会等の開催規模や会場設備に応じて、次のような対策や競技進行上の対応が必要です。

- ・チーム代表者は、メンバーリストをエントリー受付「トレイ」に提出し、チェック後受け取ります。
- ・マスク着用は、競技中(レーン入場整列後から退場時まで)以外は必要です。競技中は自由です。
- ・対戦チームとの接触を避けるため、両サイドから入退場したり、ずらせて入退場すること。
- ・試合前後の対戦チームへの「礼」は行うが、ハグ等の接触行為や試合後のハイタッチはしないこと。
- ・当面レーン交代しないようにして、1本引きで、試合後にロープの拭き取りや交換を行うこと。
- ・シューズカバーやマスク・タオル等手荷物は、床面に置かず、持参した回収袋の保管すること。
- ・シューズクリーナーの使用は、共用する場合、靴底を素手で触らず、各自のタオルで行うこと。
- ・ジュニア部門以外では、主催者が用意する液体チョークの使用は、指定場所において、チーム単位での共用を認める。
- ・練習時間の引き合いは、マスク着用して、1分以内の短時間に抑えてください。
- ・競技前後の水分補給の際は、先に手洗いや手指のアルコール消毒を済ませて行うこと。

(6) 審判等競技役員の感染症対策の取り組み

- 1) 審判等競技役員も、体調確認の上、検温を済ませて、感染症対策チェックリストを提出すること。
 - ・高熱や咳、風邪に似た症状があったり、体調不良の場合は、連盟に連絡して、出場を控えること。
- 2) 審判の対応と装具
 - ・試合中は、マスクと手袋を着用し、選手と接触せずに、マスク越しに是正合図を行うこと。
 - ・試合終了の合図は、マスクを外して笛を吹くのではなく、主審が電子ホイッスルを鳴らすこと。
 - ・競技記録票の受け渡しは、監督との接触を避けて、手袋着用して「トレイ」を介して行うこと。

- 3) 計量時の対応
 - ・計量所では、マスクと手袋を着用して、「トレイ」に提出された記録票によって行うこと。
 - ・体重計は、その都度、台座等の接触部位を、除菌シートでの拭き取りを実施すること。
 - ・事前に計量時間の予約を受けて、来所する選手を脱衣後に整列させて誘導すること。
 - ・保護着衣等(アンカーパッド、保護ベルト等)は、手袋を着用してチェックすること。
 - ・計量所には、計量係と参加者のために、受付付近にアルコール消毒ボトルを配置すること。
- (7) 競技以外の運営スタッフの感染症対策の取り組み
 - 1) 会場内の巡視
 - ・会場内を巡視して、感染症対策等が遵守されているかを確認して、守られていない場合には注意喚起し、他の参加者の安全を確保する等の観点から、途中退場を求めることもあり得ます。
 - 2) 救護と応急措置
 - ・救護を担当する看護師を配置して、応急措置に当たる。感染症対策のため、マスクや手袋を着用し、アルコール消毒ボトルも配置する。大会中に発熱等の症状があれば、相談してもらいたい。
 - 3) ゴミの回収・廃棄
 - ・大会中でも、会場内に置き去りのゴミがないか巡視して、持ち帰りしてもらうように指示すること。
 - ・ゴミの回収に当たっては、マスクや手袋を着用して、ビニール袋に入れて密閉して縛り、廃棄すること。
 - ・マスクや手袋を外した後は、石鹸と流水で手洗いするか、手指をアルコール消毒を行うこと。
- (8) 開会式・閉会式・表彰等式典の実施について
 - 1) 式典の開催方法について
 - ・開会式や閉会式は、参加者のうち代表者数名が2m以上の間隔をとって整列する形が望ましい。あらかじめイスを設けたり、位置指定しておくこと。
 - ・式に整列しない他の参加者は、観覧席から見守って、拍手を送ってもらいたい。
 - ・国家斉唱や入場行進、表彰時の楽曲などは、すべてあらかじめ録音された音源を流すこと。
 - 2) 表彰式の実施形式について
 - ・表彰式は、競技種目単位に1位から3位までをまとめて表彰する形式とし、時間短縮を図ること。チームからの列席者も、最少人数にして、同時に表彰を受けること。
 - ・メダルの授与は、チーム全員が横並びになって、審判団と対面してメダルを掛ける形式を避けて、各種目別に1位から3位までのメダルを授与台又はトレイに並べておき、各チームが受け取りに来ってもらう形に変更して、感染防止と時間短縮を図ること。
- (9) その他の留意事項(感染発生時の対応等)
 - 1) 感染症対策チェックリスト等個人情報の取り扱い
 - ・当日に参加者から提出された情報は、保存期間(少なくとも1か月以上)を定めて保存すること。
 - ・利用後に、発熱症状など体調に異変が見られる方は、まず身近な医療機関に通報してもらうこと。あわせて主催者又は施設管理者にも報告してもらうこと。
 - 2) 綱引等スポーツイベントの開催制限や感染症対策関連の情報収集<参考文献>
 - スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン
(令和3年2月15日改訂) 公益財団法人日本スポーツ協会・日本障がい者スポーツ協会
 - 島津アリーナ京都 再開にあたっての感染拡大予防に配慮した利用ガイドライン
(令和3年1月18日改訂) 京都府立体育館 島津アリーナ京都

4 綱引練習活動における感染症対策(チェックリスト) <参考資料> 京都府綱引連盟作成
(令和2年9月4日原案作成 令和3年4月10日改訂)

活動前

- 参加者名簿を作成し、氏名・連絡先を把握し、当日の体調チェックができるように準備する。
- 練習場所までマスクの着用を徹底する。
- 練習前に検温を行い、体調に不安がないことを確認したうえで、指導者(責任者)に報告する。
- 参加者全員の体調を確認してから活動を実施する。発熱や風邪の症状がある場合は無理に参加しない。
- 綱引ロープや床面の清掃・消毒を行い、密接しない最少人数で準備する。
- シューズやタオルやドリンクは個人別に用意し、まず手指の消毒を行うこと。
- 練習会場の換気や窓・扉の開放を行い、換気のタイミングを決めておくこと。

活動中

- 練習時には、過密になっていないか常に注意する。(引き合い練習は特に注意)
- 綱引ロープを握った練習以外では、マスクを着用すること。マスク無しでの会話は控えること。
- 練習の間にミーティングする場合は、密接せずに大声を控えて、必ず全員がマスクを着用して行う。
- 練習レーンまわりの床面は、直接手が触れないように適宜除菌シート等で清掃すること。
- シューズの清掃は、素手で靴底を触らないように手袋を着用し、個人用タイルを使用すること。
- シューズクリーナーや液体チョーク等の使用前後は、チーム共用となる場合、こまめな手指消毒を行う。
- 他の参加者の着衣やタオルやドリンク等には触れないこと。飲料の回し飲みは禁止する。
- 換気は、定期的に行うこと。

活動後

- 綱引ロープは、練習中のアルコール消毒は避けて、最後にまとめてタオル等で手拭き清掃する。
- 続いて床面の清掃・消毒を行い、密接しない最少人数で片付けた後は、30秒以上の手洗いをを行う。
- 活動で発生したゴミは、ビニール袋に密閉して持ち帰り処分すること。
- 活動後のミーティングも密にならないよう短時間で済ませ、帰宅途中でのマスクの着用を徹底する。
- 参加者の氏名・連絡先・体調報告を1か月間保管しておく。

活動上の注意

- 1 指導者(責任者)の方は、感染拡大防止を第一に考えて、活動を行ってください。
地域の自治体の方針や教育委員会などの規制に従うことが大前提ですので、地域の最新情報も合わせてご確認願います。活動の自粛要請が発令されている場合もあります。
- 2 参加する方は、軽い風邪症状(のどの痛みだけ、咳だけ、発熱だけなど)でも練習への参加を控えてください。若い世代では、重症化せずに無症状の場合もあり、気が付かないうちに、多くの人に感染を広げてしまうことがあります。
- 3 当面は、激しい練習メニューを避けて、基礎的な体力や技術の維持を優先させた練習に重点を置いて活動しましょう。練習内容は、引き合い等密接したり対面する形をなるべく避けて、単純な反復練習だけでなく、器具の使用など新たな興味を持てる練習となるように工夫してください。
練習観察記録を残して、参加者の意見や要望を取り入れて、常に修正改善していきましょう。